

## 財団法人環境科学技術研究所における研究評価の実施結果について

平成17年 9月 9日

財団法人 環境科学技術研究所

財団法人環境科学技術研究所においては、研究活動の効率化・活性化を通じて優れた研究成果を上げることが目的として、調査研究課題について、外部の評価者による研究評価を実施しています。今般、「低線量放射線生体防御機能影響実験調査」の事前評価を行いました。その概要は以下の通りです。

### 1. 「低線量放射線生体防御機能影響実験調査」に関する調査研究の概要

#### ① 研究内容

低線量率放射線を連続照射したマウスの生体防御機能への影響と、その結果生じるがんや非がん疾病の有無について明らかにし、環境中の微量放射線による生物影響のリスクを評価する。

#### ② 研究期間

平成17年度～平成21年度（5年間）

#### ③ 研究の目標と計画

青森県六ヶ所村の核燃料再処理施設の操業開始に伴い排出が予想される微量の放射線による生物影響を調査し、放射線の健康影響についての住民の理解と不安感の解消に資することを目的として、低線量率放射線（ $\gamma$ 線）連続照射マウスにおける生体防御機能への影響とその異常等によるがんや非がん疾病の有無を評価する。このため、異なる線量率で連続照射したマウスにおける免疫細胞の動態・機能への影響と、生理代謝機能への影響を非照射対照群と比較するとともに、発生するがんおよび非がん疾病を病理学的に解析する。

### 2. 評価の概要

① 評価の種類 事前評価

② 評価実施期日 平成17年6月24日

#### ③ 評価結果

低線量率放射線の生体防御機能に及ぼす影響と非がん疾病等との関係等については重要な研究課題であり、その目標設定と年次計画は適切である。研究遂行にあたり、限られた人材と資金の中で、実験規模・内容・スケジュール等、可能な計画とすべきである。また、共同研究等の推進を図ることも重要であろう。本研究によって、人体リスク評価につながる科学的根拠が得られることが期待される。

### 3. 評価に対する対処方針

現状の研究計画は実施可能なものと考えており、研究の進展によって修正が必要となれば検討する。他機関との研究協力等についても、研究成果を積極的に発信することにより可能性を探ってゆく。

### 4. 評価委員

主査	小野江 和則	北海道大学 遺伝子病制御研究所
	細野 正道	新潟大学大学院 自然科学研究科
	細井 義夫	東京大学大学院 医学研究科
	山田 裕	放射線医学総合研究所 放射線安全研究センター
	楠 洋一郎	放射線影響研究所 放射線生物学部
	竹屋 元裕	熊本大学 医学部

### 5. 研究評価に対する問合せ先

財団法人 環境科学技術研究所 広報・研究情報室

担当 石川敏夫

電話 0175-71-1200 (代表)

FAX 0175-71-1270